

新年 あけまして おめでとう ございます。

年が代わったとはいえ、冷戦後の世界の新秩序の構図は不透明で混沌としており、各国が協調より自国の利益追求に傾きがちで、まとまりがつきそうにありません。日本経済は今年是一段と厳しくなります。今春は倒産の旋風が吹きまくり雇用情勢も本格的に悪くなります。右肩上がりで成長路線を進んでいた時は、これらの現象も景気循環の底入れから上昇へ転ずる兆しといえましたが、バブル崩壊後の日本経済は実力以上の円高の影響で致命的な打撃を受け、ちょっとやそつとの事で立ち直ることが出来ない状態になっており、景気の回復を期待することはまだまだ先の話といえます。特に製造業に於いては、円高のため国際競争力を失った業界が目白押しで海外移転を進めています。之からは一段と価格競争が激しくなり、流通の分野に於いても激動が始まっていくと言えましょう。メーカーの生産コストを押さえる手段として中間利潤の縮小や排除を図る動きが強まってきます。本物の流通をしているところのみが生き残れる時代に入りました。本物の流通とは何か。之を考え実行していくことが私達の責務でありましょう。

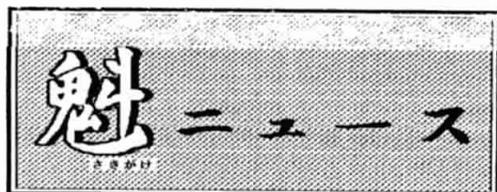
今年の銅価の見通しですが、昨年一年間の平均銅価は260円であり、一年間のドル平均は111円でした。今ドルは丁度その水準にありますが、銅価は240円です。20円の落差は昨年の海外銅市況の軟弱さを反映しているわけですが、昨年暮れから国際銅市況はアメリカの順調な景気回復や中国の旺盛な需要を映して上昇に転じており、今後の国際銅市況は比較的堅調に推移していくものと考えられます。国内銅価は円の対ドル価格に左右されますが日本の経済の低迷沈滞を反映して円の対ドルレートは軟弱に推移する可能性が濃く、この面からも本年後半の銅価は250円を超えて推移すると予想されます。

今年は昨年以上に波乱に満ちた一年になることでしょうが、全社員が心をひとつにし夢と希望を持って社業に打ちこめば、必ずや報われると信じて頑張っていくほかはありません。

どうか本年も変らぬご鞭撻とご指導を賜わりますよう謹んでお願い申し上げますと共に皆様のご健康と社業のご繁栄を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

☆ 1月の魁基準建値は234円/kgです

昨年12月の電気銅建値は1～12日220円 13～20日230円 21～28日迄240円で推移し平均銅価は228円42銭でした。1月の電気銅建値は240円でスタートしましたので、1月の魁基準建値は $(228.42 + 240) \div 2 = 234$ 円21銭となり、円未満切り捨て234円となります。価格帯は昨年12月と同様250円以下の欄で変わりありません。



寒梅の紅をふくみしばかりなり (宇津木 未勇二)

わが家の庭に紅梅が3本ばかりあるが、それぞれに咲く時期にずれがあって、一番早いのは成人の日前後に早や2, 3輪が開花し、まさに百花の魁といわんばかりである。今頃は一年中で一番寒いときだが、紅梅の蕾のふくらみを見ると春の兆しを感じ心がほころぶ思いがする。

政治改革が選挙制度改革に絞られ、政治家(屋)は一体何をしているのかと腹立たしい思いであったが、漸く一つの結論をみて、景気対策に本腰が入っていくのを先取りした形で、1月31日の株式市場は久方振りに大幅に上昇したが、これも景気底入れの兆しになってくれればと願う処である。

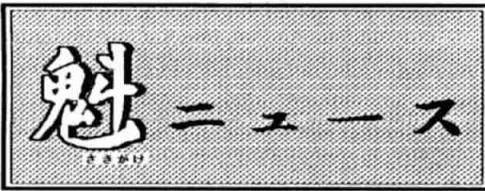
景気を季節で表現すれば、米国は春、中国東南アジアは夏、英国やEC諸国も冬を抜け早春の気配になってきたらしく、ロシアと日本だけが冬である。ロシアは政治も経済も大きな変革の中にあり、安定するにはまだ相当の年月を要するものと世界が共通して認めるところであるが、日本の場合はロシアとは異なり政治も経済も一応安定している。しかし政治においては昭和25年以来の自民政権が崩壊し、再編成の過程にあって、どうおさまっていくのか混沌とした状態であり、経済に於いては資産デフレの弊害が金融システムの足枷となっている。それに加えて実力以上に円価格が上がっていることが景気回復を遅らせる大きな原因となっている。輸出産業は海外へ出産拠点を移しているが、これがさらに進んでいく勢いであり、一方国内の設備投資は大幅に減少し、雇用不安が高まり消費も低迷し、完全に安値指向になっている。

日本の経済力を弱め、自国の経済力を高め収支改善を図るには、為替レートによるのが一番効果的であると唱えるケンブリッジ理論(ハーバード大学とMITの経済学者がワシントン当局のブレンとなって主張しており、ハーバード大学とMITの間にある通りの名前から名付けられた)に沿った対日政策が選挙民の人気取りを考える政治家にとって変えたくない政策であり、今後も今の姿勢を続けるものと考えられる。世界のリーダーとしての力を保持するアメリカの対日圧力は仲々強く迫力があり、事態は彼らの描くシナリオ通りに進んでいるように思えてならない。国際収支の大幅黒字を削減する方策として、宮沢政権時代に日本はアメリカに対し公共投資に重点を置き社会的資産の充実を企り内需を刺激することを約束した。アメリカの期待するテンポと現実の姿に大きな乖離があるが、このアメリカの性急な要求は去年の急激な円高と符号が一致する。不当な円高によるコスト競争力の低下を避けるため海外への直接投資が増えているが、果たしてどうなのだろうか。投資国の国策で取り扱い方がいつどのように変わるかわからないし、外交力の弱い日本の企業はきわめて高いリスクを背負っているといえよう。捕虜を出しているようなものである。約50年前、日本は官民あげて投資したすべてを投げ出し、着のみ着のまま海外から身一つで帰ってこなければならなかったことを忘れてはいけない。

2月3日は節分である。関西地方では豆まきと鯛と巻き寿司の丸かぶりが三点セットで邪鬼を払い福を呼ぶ。その昔、鬼畜米英といった時代があるが、二度とそのような言葉が出てくるようなことは絶対避けねばならない。

☆ 2月の魁基準建値は247円/kgです

1月の電気銅建値は4～18日240円 19～31日250円 で推移し平均銅価は244円50銭でした。2月の電気銅建値は250円でスタートしましたので、2月の魁基準建値は $(244.50 + 250) \div 2 = 247$ 円25銭 円未満切捨て247円となりました。魁価格帯は250円以下の欄で変わりません。この価格帯は昨年6月以来続いてまいりましたが、電気銅建値が今月又は来月260円でスタートになりますと1ランク上がることになりますので、電気銅建値の推移には注目を要します。



- | | | | |
|--------------|-------|------------|-------|
| 1. あかりをつけましょ | ぼんぼりに | 2. おだいらさまと | おひなさま |
| お花をあげましょ | 桃の花 | ふたりならんで | すましがお |
| 五人ばやしの | 笛たいこ | およめにいらした | ねえさまに |
| きょうはたのしい | ひなまつり | よくにた官女の | しろいかお |
| 3. 金のびょうぶに | うつるひを | 3. 着物をきかえて | おびしめて |
| かすかにゆする | 春のかぜ | 今日はわたしも | 晴れ姿 |
| すこし白酒 | めされたか | 春のやよいの | このよき日 |
| 赤いおかおの | 右大臣 | なによりうれしい | ひなまつり |

サトー・ハチロウが作詞、河村光陽が作曲した「うれしいひなまつり」の歌詞である。幼い日の家庭や幼稚園の頃を想い浮かべる人も多いでしょう。このひな祭、5月5日の端午の節句、11月15日の七五三などは子供が元気に育つように、そして幸せな生涯を全うするようにと、母から子へ、子から孫へ送る愛情表現の節目であり、子供を清く正しく導いてくれるであろう人々に感謝をささげる行事でありました。過去形で書いたのは他でもありません。私達の祖先が大切に育んできた美しい風習が、家庭から消えようとしているからです。これにはそれなりのわけがある。簡略化、簡便化、合理性を求めるという風潮や都市集中による住宅の狭隘や核家族化、自然との深いかかわりが薄れてきた日々の生活、共働きの増加等、私達の暮らしのまわりが大きく影響しているのではなからうか。

形を失なえば心も失う。日本民族が神に祈り神に感謝して明日への生命の幸せを願い、培ってきた美しい風習を形で見れなくしてはいけない。あるんだがまた片づけるのが面倒臭くて、つつい飾らずじまいでは、形を失って心を失うことにつながっていく。七段飾りのような豪華な雛壇でなくともよい。女の子のいる家庭なら、男雛女雛だけでも良いから床の間に飾って、そのいわれを子供に伝えて欲しいものである。心の優しい豊かな大人に成長するよう願いを込めて。

◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇……◇

冷戦構造が崩壊してから旧社会主義国が資本主義経済へと移行してきたため、資本主義経済の人口は10億から40億に増えました。大幅な労働人口の増加で、安い労働力を求めてアメリカは南米、欧州は東欧、日本はアジアというように、地理的に近い所へ資本が進出する動きが続いています。逼迫していた日本の労働需要は急激に緩みはじめ、リストラ対象の中高年から新卒の若人まで広い年代層にわたって就職先を見つけることがむづかしくなってきたのもこのグローバルな動きの中のひとつと考えられます。

今年も春闘の季節が近づき、それに関して経済団体のトップや労働組合幹部の談話などが出ていますが、今年はすっかり様子が違います。雇用の問題が切実になってきているとき、賃上げでもないという空気が強まってきています。(2ページへ続く)

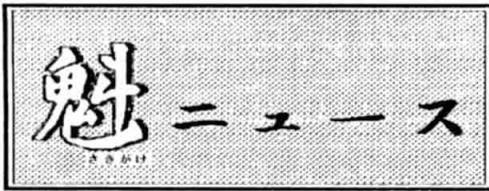
又、賃金体系の見直しを進めるところも増えてきています。よく仕事をする人と、そうでない人の峻別を給与面にはっきり出して、人材のレベルアップにつなげていくことが大切になってきました。インフレ経済ではベースアップが必然であるが、デフレ経済では必然ではない。能力の向上と仕事の成果を評価して、昇給額、減給額を算定するから昇給する人、昇給しない人、減給になる人がおってもおかしくない。そんな方向が今春あたりから見えてくるように思います。

☆ 3月の魁基準建値は242円/kgです

2月の電気銅建値は1～13日250円、14～28日240円で、平均銅価は244円21銭でした。3月の電気銅建値は240円でスタートしました。従って3月の魁基準建値は $244.21 + 240 = 242$ 円10銭で、円未満切り捨て242円となりました。価格帯は250円以下の欄で変わりません。

☆ 前号誤謬訂正のお詫び

前月号でケンブリッジ理論をご紹介しましたが、これはマサセッチュ理論の誤りで、ハーバート大学とMITの間にある通りの名もマサセッチュ通りで、謹んで訂正お詫びいたします。



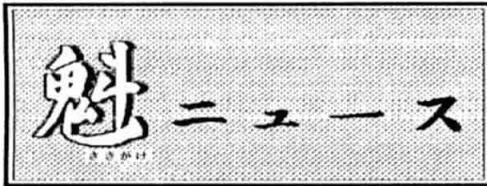
英語のSpringには春という意味の他に、泉、源泉、起源、跳躍、ばね、弾性等の意味がある。春は四季のはじまりであり、春夏秋冬といっても秋冬春夏とは言わない。(因みに春のフランス語Printemps、スペイン語のPrimaveraは最初という意味があり、英語のWinterは冬であるが、文字では晩年という意味に使われる。) 泉は水の流れの起源であり、それからせせらぎとなりやがて大河となって海に注ぐ。園児から小学生、小学生から中学生、学生から社会人へとそれぞれ跳躍し、新しい生活が始まるのも春である。まさしく春は気分を新たに新年を迎えるのにふさわしい季節であり、年度変わりが4月から始まるのも自然の理に叶っているといえよう。気温が上がると人間の活動も活発になる。建築工事も動きが出てこよう。新芽の出てくる如く、商談の新芽もどんどん出てきて欲しい。

☆ 4月の魁基準建値は242円/kgです

3月の電気銅建値は1～14日240円、15～31日250円で推移し、平均銅価は245円40銭でした。4月の電気銅建値は240円で始まりしました。従って4月の魁基準建値は $(245.40 + 240) \div 2 = 242.70$ で、円未満切捨て242円となります。価格帯は250円以下の欄で、先月同様変わりません。電気銅10円修正安は、海外銅市場の反落と円高によるものです。

☆ 空きパレット返却のお願い

魁の梱包が、ベニヤ板から段ボール梱包に変わってから嵩が高くなり、パレットに収容できる枚数が減った為、パレットが不足してきております。従来より返送については、皆様より理解あるご協力を賜わり、感謝いたしております。何分にも沢山のパレットが入用でございますので、空いているパレットはすみやかにご返送下さいますよう、尚一層のご協力をお願い申し上げます。



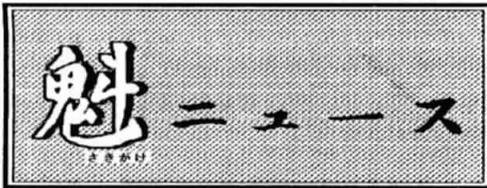
5月の第2日曜日は母の日である。母を亡くした者は白、母が健在な者は赤のカーネーションを胸にかざり、母に花束を贈って常日頃の母の苦勞を慰め、母の愛を讃えて感謝する日である。

アメリカのウエストヴァージニア州の教会に、ミス・ジャービスという女教師がいた。日曜学校の説教のとき、モーゼの十戒の一つ「汝の父母を敬え」という章の解説に「母の恩の深いことを人に悟らせる方法を考えよ」と教えていた。彼女が亡くなり、その追悼式が命日に行なわれたとき、一人娘のアンナ・ジャービスは、母が好きだった白いカーネーションを母に捧げることで母の伝えを伝えていこうと思い、信者たちに白いカーネーションを配った。信者たちはそれを胸に飾って、教えのとおり、母への感謝を示したのである。この話を伝え聞いたデパート経営者ジョン・ワナメーカーが、1908年5月の第2日曜日に母を讃える記念会を催して、アンナの話伝えた。これがレディファーストの国アメリカで反響を呼び、1914年、議会の決議により国民の祝日として、5月第2日曜日が「母の日」と定められた。日本ではキリスト教会の働きかけなどによって次第に広まっていったが、昭和24（1949）年頃より母の日として定着するようになった。父の日がないのは不平等だと、遅れて6月の第3日曜日を父の日とするようになったのが1934年。日本では父の日もデパートなどが昭和28年頃から働きかけたように思うが、今では「父親参観」をこの日に行なう小学校が増え、私達の生活に定着してきたようである。

カーネーションの花言葉は「母の愛情」であるが、このカーネーションの値段が、この季節にはグンと跳ね上がる。品不足になるから当然と言えば当然であるが、カーネーションをもらうお母さんも、子供の財布のことを思うと複雑な気持ちであろう。母の愛情への感謝の表わし方にきまりはない。それぞれの考えで色んな表わし方があってよいのだと思う。

☆ 5月の魁基準建値は245円/kgです

4月の電気銅建値は240円で終始しました。5月の電気銅建値は10円上がり250円でスタートしました。従って5月の魁基準値は $(240 + 250) \div 2 = 245$ 円となります。価格帯は250円以下の欄で変わりありません。



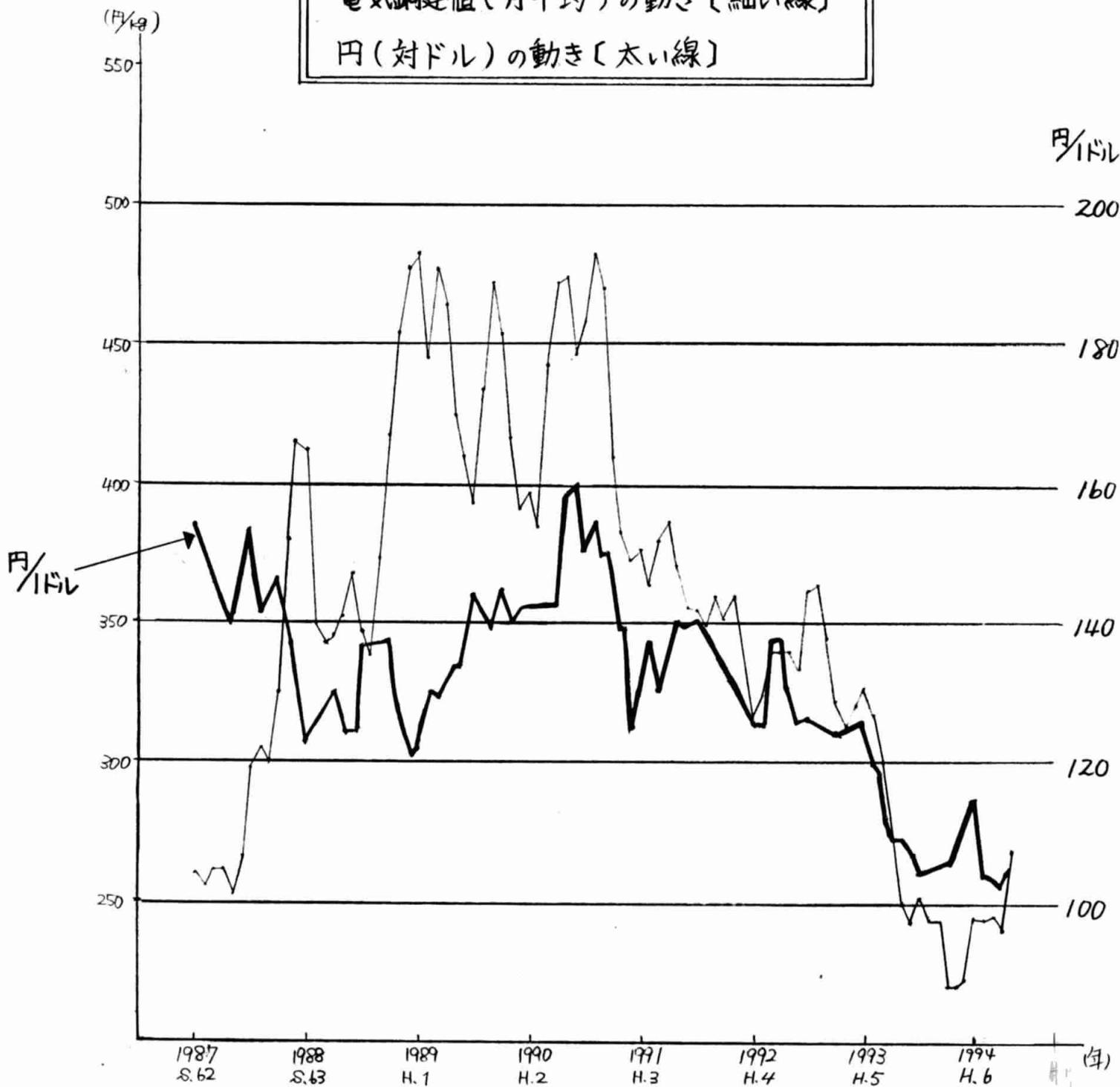
銅価が久し振りに上昇しました。LME市場で昨年10月1トン1600ドルまで落ち込んでいた電気銅価格が今年に入ってから徐々に水準をあげ、5月に入り20日間程の間に350ドルほど上がり、現在2250ドル前後の価格になっています。約4割ほどの上昇ですがこの主な原因は、アメリカの景気回復、日本を除くアジア各国の好景気、ヨーロッパの底入れなどにより銅需要が増えてきたためです。アルミ・ニッケル・亜鉛等、他の非鉄金属も軒並み上昇しており、これは景気回復が本格化しつつあることの先取りの動きといえます。しかしバブル崩壊のしこりを抱え円高にあえぐ日本経済は、非成長経済時代への対応にリストラに懸命の現状でありますから、好況感は露ほども感じられません。世界の各国が乗ってる好況バスにロシアと日本だけが乗りそこねた光景が浮かんできます。

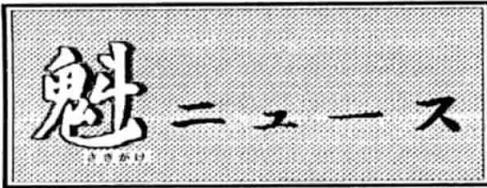
所得の伸びが鈍り内外価格差が大きな問題になっていますが、これからはいやおうなしに価格差が縮む方向にエネルギーが働いていきます。この点では非鉄金属は文句なしの優等生ですが、それだけに精錬も圧延も円高による付加価値分の目減りで採算が割れ、苦しい経営を余儀なくされております。日本の輸出産業を支えてきた素材産業が力をなくしていくことは日本の国にとって大きなマイナスですが、そうなる可能性は極めて高く心配されるところです。それにしても日本の物価はどうしてこんなに高いのか。地価の高さが大きな原因といわれていますが、過剰なサービスも一つの要因でありましょう。ガソリンといえばアメリカの3倍もする。ガソリン税のウエイトが高いのでしょうか、判らないのがガソリンスタンドの人の多さ。窓拭き、灰皿のゴミの始末、洗車等、サービスとしているところに多くの人力がさかれ、わけてもひどいのは旗ふり。朝から晩まで高校生のバイトを使ってやっています。これらのサービスも結局ガソリンの価格に織りこまれていくのですから高くなるはずです。規制が外れて郊外ではガソリンスタンドの新設ラッシュが昨年から目立ちます。景品つき販売や旗ふり販売で価格を維持するのでなくガソリンを安くしてもらおう方が嬉しいのですが、幾ら円高になっても下がらぬガソリン。日本は本当に不思議な国です。

☆ 6月の魁基準建値は274円/kgです

5月は電気銅建値は6～10日 250円、11～13日 260円、16～19日 270円、20～31日 280円と上昇を続け、月平均銅価は269円44銭でした。6月の電気銅建値は280円でスタートしました。従って6月の魁基準建値は $(269.44 + 280) \div 2 = 274$ 円72銭となり、円未満切り捨て274円となります。この結果魁の価格は価格表の250円超300円以下の欄となり、1ランク上がりました。これは昨年8月以来10ヵ月振りのことです。

電気銅建値(月平均)の動き〔細い線〕
 円(対ドル)の動き〔太い線〕



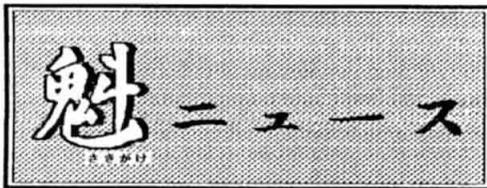


本年もはや後半に入りました。あっという間の半年に総理大臣は3人目に変わり激動の時代さながらの政変が続いています。今回の場合、自民党が政権を取り戻すため社会党にすり寄ったのですが、これは長きにわたる与野党対立時代を思うと異なことと思えます。しかし過去の一党支配時代と違い異種体とも共通項を見つけて連合するということが当然のことのようになり、顔をつぶされるようなことがあると袂をわかちまた連合できる相手を求める。多勢を占めないで政権の座につけないから小異を捨てて大同につく政治屋さんが多く、節操を曲げぬ骨太な政治家は少なくなっています。政界が混迷から抜け出てすっきりするまで今暫らく私達は筋書きの読めない芝居見物をさせてもらうのでしょうか。

今年の梅雨は空梅雨になってしまいそうです。今のところ近畿地方は平年の半分にも届かぬ雨量ですが、7月上旬も晴天が続くそうで、今夏は水不足で悩む地方が増える心配があります。昨年の米の不作は冷夏多雨によるものでしたが今年は去年とは逆の気象で困るところが出てくるでしょう。降る時降って照る時は照るという当り前のことがなかなか当り前にいかないんですね。97円台に入った円高。天災人災様々な災害が私達を襲ってきます。建築工事がガタ減りして、売り上げもガタ減り、借金だけは増えていく。一部のジャーナリストがセンセーショナルに書く見たことも聞いたこともない大不況が現実のことになりそうにも思えるこのごろです。

☆ 7月の魁基準建値は283円/kgです

6月の電気銅建値は1～8日280円、9～30日290円で平均銅価は287円27銭でした。7月の建値は280円でスタートしましたので、7月の魁基準建値は $(287.27 + 280) \div 2 = 283$ 円63銭で円未満切り捨て283円となります。価格帯は先月同様250円超300円以下の欄となり変わりません。



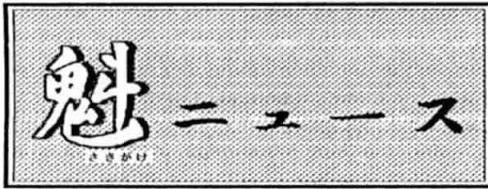
真夏日連続32日の大阪より、謹んで暑中お見舞い申し上げます。

わが国は四季に恵まれ夏に入る前には梅雨という、たくさんの雨水に恵まれる季節がありますが、今年は東北地方を除いては無きに等しい有様だったのに加えて、猛暑の夏が続き水不足があちこちで深刻になってきています。タダのように無頓着に使うことを何の疑問も抱かずにいましたが、水がいかに貴重な資源であり、万物の命の源であるかをあらためて考えさせられます。「命の水」といいますが水は私達の命の根元であります。その水にも命があり、私達はそれを尊重しなければなりません。私達が生かされている大自然の中で果たしている水の役割、その水を生かすにはどうすればよいか、どうすれば水の命を断つことになり我々はその結果を背負うかを私達に教え、考えるよき機会を今年の夏は与えてくれました。

一説に1℃の気温上昇は7,000億円の需要を生むと言います。真偽のほどは知りませんが今年の平均気温は平年より3℃ほど高く、平年より4℃低かった去年と比較すると7℃の差になりますから去年より4兆9000億円およそ5兆円の需要増GNPのUP効果があるとか、長谷川慶太郎氏が言っていました。とすれば7～9月の景気天気図は相当良さそうですが、皆様のところでは如何ですか。エレクトロニクス、クーラー、ビール等の夏物商品…などと無縁な私共には今ひとつピンと来ませんが、金は天下のまわりものというからそのうちこっちにも少しはまわってくるのかなと期待したくなります。それにしても台風、来ませんね。皆左折してしまい、上陸してくれません。台風の目につくよう左折禁止、直進と右折可の交通標識をぶら下げないといかないのかな。大地の喉が渴ききっている今、早く来い来い台風さんと声をはりあげ呼び込みをしないとあきまへんかな。

☆ 8月の魁基準建値は289円/kgです

7月の電気銅建値は1～5日280円 6～31日290円で平均銅価は288円57銭でした。8月の電気銅建値は290円でスタートしました。従って8月の魁基準建値は $(288.57 + 290) \div 2 = 289$ 円28銭円未満切捨て289円となります。魁価格帯は前月同様250円超300円以下の欄で変わりません。



秋めくや あゝした雲の出かゝれば (池内 たかし)

近畿地方には琵琶湖という大きな給水源がありますが、水位がマイナス1mを超え、このままでは9月は相当深刻な状態になりはしないかと懸念されています。それにしても今年の夏の厳しさは格別なものでした。猛暑が潤いをもたらした業界も数々ありますが、一方水源が枯れて給水制限が敷かれている処が日増しに増えてきており、誠にお気の毒ですが、ことほどさように世の中は良き事半分悪しき事半分といわれるが如く、すべてがうまくゆくものではないことが鮮やかに出ております。早く雨が降って欲しい。朝起きて雨が降っていたら「あゝ今日はいゝ天気だなあ」と言ってみよう。そう思うこの頃です。

☆世界銅需給予想

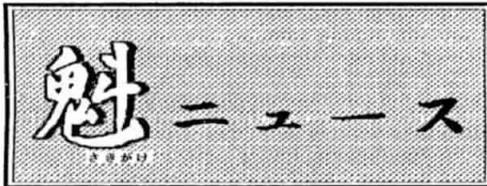
単位1,000トン

	1994年	1995年	1996年	1997年
鉱石生産	9,061	9,838	10,253	10,802
地金生産	11,100	12,000	12,522	13,150
地金需要	11,646	12,072	12,500	12,893
過不足	△546	△72	22	257

ロンドンの証券会社、T・ホーア社が発表したりポートより抜粋したものです。今年は54万6千トンの供給不足ですが、今後新規の銅山の操業開始が予定され供給が増えていくので、97年には供給過剰になると見込まれています。国際相場は昨年(93年11月 1600ドル)秋よりジリ高を続け、夏は一服しましたが秋需の季節に入り又上昇の気配を見せております。現在は1トン2400~2500ドルの水準ですが、来年前半には2900~3000ドルくらいまで上昇し、その後価格は後退していくと予想されています。

☆9月の魁基準建値は288円/kgです

8月の電気銅建値は1~22日 290円、23~31日 280円で推移し平均銅価は286円96銭でした。9月の電気銅建値は290円で始まりましたので、9月の魁基準建値は $(290 + 286.96) \div 2 = 288$ 円48銭となり、円未満切り捨て288円となります。価格帯は前月同様250円超300円以下の欄で変わりません。



スポーツの秋である。広島で第12回アジア大会が始まった。42カ国約7300人が集まった。参加国をみると、北から南まで多士済々である。カザフスタン・ウズベキスタン等旧ソ連邦の国からアラビア半島の国々等アジアも広い。今までは各国の首都で開かれた大会が広島で開かれたことは、多くの参加者に核戦争の悲惨さを知り、人類の破滅を防ぐためにも核廃絶へ向って進んでいくことの大切さを認識してもらう上で極めて意義深いことである。今アジアは世界景気を引っ張っていく原動力になりつつあるが、この大会も益々盛んになっていくことだろう。国威発揚の場でなく、真の親善友好の場となり参加者が日本によい印象をもって帰ってもらう様声援したいものである。

それにしてもこの大会のメイン会場へのアクセス交通機関の工事で鉄構造物落下事故があり多くの尊い人命が亡くなられた悲惨な事故があったことを思い出す。折しも東海道新幹線が開通し満30年を迎えた。3～4分毎に発着する過密ダイヤになって来ているが、開業以来未だ乗客の死傷事故は皆無である。ひとたび事故が発生すれば大事故が予想される交通運輸で安全運転が30年間続いていることはたいへんなものであり、関係者の並々ならぬ努力があつてのことと思われる。最近欧州北海で大型フェリーの海難事故があり、900人余の人が死亡した報道があつたが、原因は様々な要因が重なって船首の扉が開いて海水が自動車収納用デッキに流れ込み船が不安定になり転覆したものらしいが、十分な点検整備があれば防げたものであろう。経営にもいえる教訓として受けとめたい。

☆ 関西商法の教訓

東商リサーチTSR情報「金曜茶論」に大阪府立産業開発研究所が発表した「大阪の卸売業にみる一老舗の経営特質」についてのアンケート調査結果の中から関西商法の教訓が紹介されていまして、既にご存じの方もいらっしゃると思いますが改めてご紹介いたします。私共も会社が健康で長生きするよう参考にしていきたいと存じます。

〈経営姿勢〉

- ・相手方に対し①誠実であること②感謝の気持ちを忘れないこと
- ・地道に築いた信用・近代化・先見性・人材育成
- ・まごころ奉仕、顧客に喜ばれる商売
- ・信頼と協調が何よりの力となる
- ・楽天愛人 全ての責任は己にある
- ・経営の近代化 計画→実行→計算→反省
- ・経営者の考えを社員に徹底する。決断力をはっきりする。イエス・ノーをしっかりと言う
- ・銀行との信頼関係

- ・商売は牛のよだれ、続くことが一番大切
- ・原点に戻って考える
- ・常に顧客の志向動向に気を配り、CS重視の商売に徹する
- ・家業導一、額に汗して儲けろ、他人から早く信頼されるように
- ・すべてのことに冷静に対処する

〈堅実性〉

- ・不況時に合わせた会社体質が重要（好景気だといって浮つかぬこと）
- ・取扱商品・販売方法転換の難しさ
- ・身のほどを知り、経営を行なうこと
- ・リスクに見合う効果を常に意識して商道を実践すること
- ・与信については慎重に処している
- ・売掛金管理の徹底・無理をしない
- ・本業以外の財テクは駄目
- ・売上比率を特定の得意先に集中しないこと
- ・売行き不振の時は大口取引は慎重にしなければならぬ
- ・在庫は常に適性に（第1次オイルショック時に在庫過大を経験）
- ・仕入先の厳選と密着・倒産にかからないこと
- ・分相応、足を地につけた商売をすること
- ・在庫リスクの少ない商売でなければならない
- ・借入額の膨張を避ける
- ・自分の力を100とすれば、新規事業は70～80とする
- ・地道な商いに徹すること

〈環境への適応〉

- ・得意先は長い眼で見れば、たえず変わっていく
- ・立地条件の急激な変化に対しては、相当の対応が必要であること
- ・不況に強い体質構築
- ・環境と時流に対し柔軟な対応ができる体制をもつこと

〈革新性〉

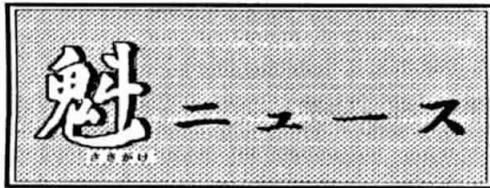
- ・商品開発の重要性・大手依存体質からの脱皮
- ・経営者・社員の世代交代
- ・扱い商品のライフサイクルの認識

〈人間的側面〉

- ・常に後継者の育成・トップの和の重要性
- ・若くとも意識レベルの高い人材の養成
- ・全社員に経営の参画意識を高める意識改革が必要
- ・他からの金では動かない協力者を大事にしておくこと

☆ 10月の魁基準建値は290円/kgです

9月の銅価は1ヶ月290円で終始しました。10月の銅価は290円でスタートしました。従って10月の魁基準建値は290円で価格帯は先月同様変わらず250円超～300円以下の欄です。

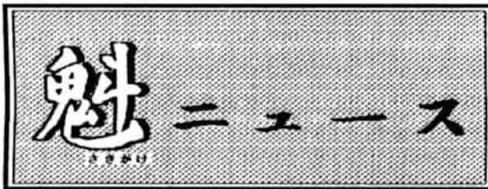


天高く澄みわたった青空、日々深まりゆく紅葉。いままさに秋の真っ只中を覚えます。油断をしていると風邪をひいてしまいやすいのもこの季節です。気がつかぬ間に気温が下がっていて、ソクソクして気がついた時はもう遅く風邪をひいてしまったというご経験は、大方の方がおありでしょう。初期の風邪の段階であれば私は勧められた腰湯をして風邪退治をします。就寝前に風呂に入りますが、胸から上は湯につけず20分位入っていると、全身から汗が玉の如く吹き出てきます。冬ならば25～30分つからないとこのようにはなりません。風呂から上ってもまだ次から次と汗が出てきますが、ここで身体を冷やしてしまつたら何にもなりません。すぐ寝床に入り汗を出すのです。汗で濡れた寝間着は少し発汗がおさまった所で着替え、ぐっすり寝るのです。発汗と十分な睡眠で翌朝は9分9厘快適な目覚めを迎えることができます。まだなされたことのない方は、一度お試しください。但し重症の風邪の方には逆効果になりますから、お勧めできません。

最近銅板・条が、メーカーのロールマージ回復の動きを反映して、徐々に価格が上昇していく傾向になってきております。ご了承の通り海外銅相場は1993年11月の1620ドル/屯を底にジリ高を続け、極近では2670ドル/屯と市場の需給関係を映して上昇してきました。日本国内の電気銅建値は93年11月の220円が300円になっていますが昨年11月と同じ為替レベルであれば現在建値は340円になっていて不思議でない大幅な上昇です。このような大幅な銅価の上昇にも拘らず伸銅メーカーの採算は悪化して歯止めがかからず各社共リストラに取り組み採算の改善に取り組んでいますが大幅な赤字決算を余儀なくされており、落ち込んだロールマージンの回復が急務となっております。このような傾向は他の非鉄金属も同様で、鉄鋼についても同じではないでしょうか。産業の空洞化、需要の減退、ロールマージンの落ち込みという図式は日本の工業力を支える素材産業の力を衰退させる由々しき問題です。私達流通も商品を提供してくれるメーカーが疲弊してしまつては共倒れを免れません。その点からも流通とメーカーは利害が相反するのではなく、利害が一致している運命共同体であるといえましょう。私共もメーカーの意を体して、お取引先の皆様に値戻しをお願いして参りますが、メーカーの苦しい状況に暖かいご理解を賜わり、販価の上昇にご協力を賜わりますようお願い申し上げます。更なる電気銅建値の上昇も考えられ、価格面で何かとご無理をお願いすることもあるかと存じますが、何卒事情ご賢察下さいますよう、謹んでお願い申し上げます。

☆ 11月の魁基準建値は296円/kgです

10月の電気銅建値は1～25日290円、26～31日300円で平均銅価は292円でした。11月の電気銅建値は300円でスタートしました。従つて11月の魁基準建値は $(292 + 300) \div 2 = 296$ 円/kgとなります。価格帯は前月同様250円超300円以下の価格帯で変わりません。



毎年のことながら、年の瀬が近づく頃になると月日のたつことの早さに今更ながら感嘆する。休日が増え仕事をする日が減ったため、普段がめたらやたらに忙しくなってきたのが最近の傾向だが休日が増えて喜んでいいのか考えるこの頃である。7月20日を「海の日」と定め、国民の祝日とすることが検討されているらしい。また増えるのだ。欧米の労働時間数に近づけることの必要が政府主導による休日の増加につながっているのだが、アダムとイブに労働を懲罰として課した西欧の労働観と二宮尊徳や昆虫の世界に教えられて育った労働観には働くことと生活をエンジョイすることの軽重に価値観としての落差が相当にあるようである。豊かになって腹を空かせて食べる飯のうまさを長い間忘れてしまっているように、月に2日しか休みがない丁稚生活で、その休みの嬉しさが忘れられないという得難い経験をした人も今では少なくなった。真の喜びに感激することが少なくなってきた。これが豊かさの裏返しだろう。いたずらに休日を増やしていくのが果たしていいことなのか疑問に思えてならない。社会的な背景として企業が労働コストの上昇を防ぐため、パート労働への依存度を高めていくことが考えられる。日本より早く峠を越えたイギリスでは既に労働者の4人に1人はパートタイマーになっている。雇用や労働関係がこれまでとは大きくしかも急激に変化していくことは必至である。賃金や報酬制度に於いても年俸制の採用が多く企業の始まっているが、賞与のウエイトが相対的に低くなる一方、能力や貢献度による待遇の差別化が鮮明になっていくことなどが考えられる。雇用破壊や賃金破壊が欧米先進国から日本へと波及していき、高学歴が役に立たない仕事につかざるを得ない人が増えたり常識を覆えすような現象が増えていきそうである。

この一年大変ごひいきになりありがとうございました。皆様の御健祥を祈り、無事佳き新年をお迎え下さいますようお願い申し上げます。

☆ 12月の魁基準建値は329円/kgです

11月の電気銅建値は1～5日300円、7～14日310円、15～17日320円、18～30日330円で平均銅価は318円でした。12月の電気銅建値は340円で始まりましたので、12月の魁基準建値は $(318 + 340) \div 2 = 329$ 円となります。従って魁基準建値は1ランク上がり300円超～350円以下の価格帯となります。この価格帯は昨年3月以来で19ヵ月振りの戻りです。暫らくはこの価格帯が続くものと思われれます。尚銅板・条の価格も12月から1月へと上昇傾向が続く見込みであります。